

第1回 データサイエンス教育プログラムに関する意見・提案等

令和3年度第1回自己点検・評価委員会（R3.6.4開催）において、足利大学数理・データサイエンス・AI教育プログラムに関する評価が議題として取り上げられた。審議の結果、文部科学省に提出した申請書の様式6「自己点検・評価について」の記載内容に関して委員から述べられた意見・提案をもとに、本教育プログラムの点検・評価を開始することにした。

委員から提示された意見・提案を様式6の項目ごとに整理した結果は以下の通りである。

◎プログラムの履修・修得状況について

- ・ 申請書類に記載されている「教務課に登録されている」を「教務課が管理している学務系サービスシステムに登録されている」のように具体的に表現した方が良い。

◎学修成果

- ・ システム情報分野以外の学生の受講者数が増えた時に、高い平均点を維持できるかが課題になる。
- ・ 本プログラムを構成する科目ごとの分析が必要。

◎学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度

- ・ 本プログラムを構成する科目については、プログラムに沿った内容のアンケートを追加で実施するか、現行実施されている授業評価アンケートに項目を追加する必要がある。

◎学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度

- ・ 本プログラムを構成する科目については、プログラムに沿った内容のアンケートを追加で実施するか、現行実施されている授業評価アンケートに項目を追加する必要がある。
- ・ 学生アンケートの結果から高い評価が得られれば、評価された値について言及できる。

◎全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況

- ・ 工学部全体で受講できる科目の配置が適当。リテラシーレベルという観点で、「コンピュータサイエンス入門」や「技術者倫理」を活用すべき。「技術者倫理」は、モデルカリキュラムの「心得」に最適な科目。5コマ目にオンデマンドで開講すれば履修率は向上する。1、2年次の配置が良いのであれば、開講年次を2年に下げることにも可能。現段階では、計画で十分。
- ・ 工学部のプログラムは情報分野の科目で構成されているため、システム情報分野以外の学生に積極的な履修に繋げることは難しい。専門共通科目群の性格を持った科目でプログラムを再構成する必要がある。次回の教育プログラムの更新に備えて、専門共通科目群のカリキュラムを再検討する必要もあるが、学修・教育目標の達成度評価が複雑になる恐れもある。
- ・ 1年生の時間割はCAPの制限で選択の余地が限られており、現状の科目では工学部の履修率を上げることは難しい。履修率向上のためには、本プログラムに関わる科目を専門共通科目群に科目を配置する、または新たな科目を設ける、「コンピュータリテラシー」や「コンピュータサイエンス入門」の内容を変更するなどの対応が必要。
- ・ 工学部については、対象科目を受講しやすくする必要がある。
- ・ 看護学部においては、履修ガイダンスを通じて全体に周知することに加え、個々の学生にはグループアドバイザーが本教育プログラムの履修および年次学修計画作成を促している。

◎教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価

- ・ 企業・病院等へのアンケートの実施方法や内容を再検討し、学外からの視点を具体的かつ明確にする必要がある。

◎産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見

- ・ 企業・病院等へのアンケートの実施方法や内容を再検討し、学外からの視点を具体的かつ明確にする必要がある。
- ・ 学生にとって知識を身につけるだけでなく、就職に直結するような利点を明確にする必要がある。

◎数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること

- ・ 本プログラムに関する学生・企業に対するアンケートを実施し、その結果をもとに検討・改善を進める必要がある。

◎内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること

- ・ 本プログラムに関する学生・企業に対するアンケートを実施し、その結果をもとに検討・改善を進める必要がある。
- ・ コンピュータリテラシー、コンピュータサイエンス入門、応用数学ⅠⅡ、応用物理学ⅠⅡの科目や内容を再編して数理・データサイエンス・AI教育プログラムを構成することが理想的ではないか。高校の情報技術の内容と重なる部分から今回のプログラムの内容までを網羅できれば良い。

以上の意見・提案を踏まえ、本教育プログラム運営委員会において教育プログラムの改善に向けた具体案を検討する。運営委員会の審議内容については、教務委員会と適宜情報共有し、大学全体のカリキュラムとの調整を図る。